

こう言って「弁当の日」を設けたのが現在の「食育」の原点となっているそうです。

食育の取り組みは、学年ごとに食習慣や食生活の改善などを課題として取り組んでおり、併せて郷土のすばらしさを実感させる食育教育を実践していました。

「弁当の日」は、児童が自作の弁当を持って登校します。献立を立てる、材料を買う、調理をする、盛り付けをする、これらを自分一人でやり遂げた自慢の弁当を持って登校します。親は口を出しても、手を出さない、手伝わない。これを年4回実施しているそうです。

このように、食育の求めるものは、家族の団欒、家族の会話が増える、お母さんが一生懸命になる、それにつられお父さんが関心を持つ、子どもは弁当を作るのに一生懸命に



なると言うことで、家族と一緒に食事して会話が增え、そこから波及効果が出てきて地区の人との交流もできてくるのではないのでしょうか。

さすがに「教育の町」だと思えました。今回の研修を終えて、最近の家庭環境の変化による放課後児童クラブの必要性は勿論のこと、知育、徳育、体育の基礎となる食育がどんなに重要かということも考えさせられました。

## 産業建設常任委員会

### ●研修目的

△大型商業施設の出店に伴う街の変化

△農業施策

### ●研修地

△福岡県 粕屋町  
△福岡県 嘉麻市

### ●研修結果

粕屋町には、当町に建設中の「フジ」とほぼ同規模程度の「ダイヤモンドシティー ルクル」が、平成16年6月に開店しており、大型商業店出店に伴う周辺環境への影響について研修しました。

周辺道路整備は、近接する幅員32mの都市計画道路供用開始に合わせて開店させることで解消しており、交通渋滞は、開店当時には発生したものの、土日祝祭日にはほぼ満車であるにもかかわらず、慢性的な渋滞は発生していないことから、特段の対策は講じていないとのことでした。

既存商店へ及ぼした影響は、商工会によるアンケートによると、既存商店街の業種は、飲食・喫茶・食料品が全体の53%を占め、事業主の年代は50歳以上が80%で、顧客は町内及び付近の町が60%以上を占めています。

大型商業店出店に際して講じた対策は、「接客サービスの向上」24%、「何もしていない」33%で、出店の影響は「価格競争が激化した」4%、「変わらない、やる気が出た」76%であることから、直接的影響はないにしても、心理的には何らかの影響を及ぼすか、反対に適度の刺激として受け止められていました。しかし、粕屋町においての影響は少ないが、周辺の町へ及ぼした影響は、少なからずあったようでした。

嘉麻市においては「農業施策」について研修しました。

農業の概要は、中山間地域から平坦地まで農地が広がっており、米麦・

大豆、トマト・イチゴやトルコキキョウなどの野菜類や花き類を主とした施設園芸、梨などの果樹等多岐にわたった農業経営がなされています。

農業経営については「中山間地域直接支払い事業」を展開しており、48集落中17集落・270人が同事業に取り組んでいます。が、会計検査対象事業のため、慎重な展開が地区に求められるなどの問題点もあるようでした。今後の農業経営については、担い手など農地の保全が大きな課題であることから、法人を含む認定農業者総数78人で、品目横断的経営安定化対策や、集落営農団体を組織して対応していました。

地産地消の取り組みは、学校の管理栄養士及び農政関係者と協議しながら、リンゴ・梨などイチゴを17小中学校のうち7校に供出している



が、学校以外への供出は行っていないとのこと。更に充実を図るために市内にある直販所や、道の駅などの施設を利用して推進すると共に、広報等で周知・理解を求めていくとのことでした。

今後当町においては、大型商業施設の立地を起点とし、また農業のありようを十分に検討したうえで施策を立案・実施し、更なる町の発展に向けて努力していくべきであると感じました。